講演 2

柴胡加竜骨牡蛎湯が疼痛に有効であった症例の検討

黒川 貴代 先生

医療法人社団康喜会 辻仲病院柏の葉
人間ドック・健診センター 内科・漢方内科

1992年　順天堂大学医学部 卒業
1995年　順天堂大学消化器内科 医員
2003年　東京臨海病院健康医学センター 医員
2007年　東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教
2011年　同研究所 非常勤講師
2015年　辻仲病院柏の葉 健診センター長　同 漢方未病治療センター所属

はじめに

身体の痛みに対し、西洋医学的には一般的に鎮痛薬、また最近では鎮痛薬に向精神作用を加えた処方なども用いられているが、西洋医学的アプローチでは痛みが軽快しない患者も多い。漢方薬での治療は、痛みの悪化要因や軽快要因を突き止めたり、心身一如の考え方から、身体的な痛みだけでなく、その背後にある精神的な要因にもアプローチすることができる。

そこで、疼痛に柴胡加竜骨牡蛎湯が有効であった症例を紹介する。

症　例

症　例：78歳 女性。
主　訴：右肩から上肢の痛み。
既往歴：変形性膝関節症(60歳)。
個人歴：喫煙歴なし、飲酒歴は機会飲酒。
現病歴：X年3月に左膝関節痛・腰痛を主訴に来院した。疎経活血湯エキス5.0g(分2)、薏苡仁湯エキス5.0g(分2)で症状は軽快していた。X年11月の診察時、右肩から腕にかけての痛みで、整形外科にて肩関節周囲炎と診断され、鎮痛薬等が処方されたが軽快はみられなかった。
自覚症状：左足がつるためによく目が覚めるとの訴えは疎経活血湯で改善されたが、その他に、暑がり・寒がり、イライラ・忘れっぽい、耳鳴・耳閉感、乾咳があった。便は1回/2日、尿は5回/日で夜間尿は1～2回であった。
身体所見：**図1**に示す。
経　過：右肩や腕の痛みは就寝時にひどく、痛みで目が覚めてしまい寝返りもうてないとのことで、この症状を柴胡加竜骨牡蛎湯の条文「一身儘く重く、転側すべからざる者」と考え、クラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス2.0gを眠前に

図1　身体所見

- **身長**：150cm　**体重**：62kg　**BMI**：27.6
- **血圧**：120/78mmHg　**脈拍**：72/分
- 顔面色調はやや黄色　目の周囲に軽度のクマあり
- 脈は沈虚
- 舌は暗赤色で、薄い白苔あり、歯痕および舌下静脈怒張を認めた
- 腹力中等度、両側胸脇苦満、心下痞鞕、両側臍傍圧痛、両側下腹部圧痛が認められた
- 足の冷えがみられた

図2　臨床経過

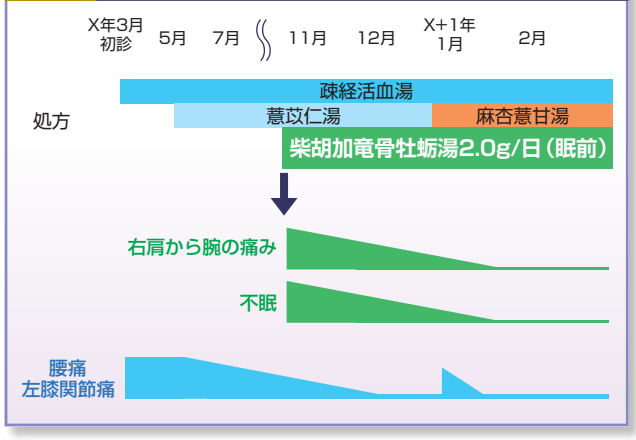

図3 柴胡加竜骨牡蛎湯が上肢の疼痛に有効であった症例

症例	年齢	性別	症状	疾患	併用処方	腹証
1	78歳	女性	右肩・腕の痛み 寝ているときにひどい 痛みで目が覚めてしまい 寝返りもうてない	変形性膝関節症 腰痛	疎経活血湯 薏苡仁湯	胸脇苦満　心下痞鞕 臍傍圧痛　下腹部圧痛
2	60歳	女性	肩が痛くて眠れない	子宮がん術後	十全大補湯	胸脇苦満　心下痞鞕 臍傍圧痛　下腹部圧痛
3	62歳	女性	右腕の痛み 痛みで目が覚める 右を下にして眠れない	腰痛 DM MS術後	桂枝茯苓丸	胸脇苦満　臍上悸 臍傍圧痛　下腹部圧痛
4	51歳	女性	就寝後の左上肢の痛み 布団に当たると身体の痛み 怖い夢を見る	右下垂肩症候群	当帰四逆加呉茱萸生姜湯 疎経活血湯	胸脇苦満　臍上悸 臍傍圧痛　下腹部圧痛

処方した。1ヵ月後には肩の痛みが改善して眠れるようになったが、患者の希望により内服は継続した。4ヵ月後には痛みは消失したため廃薬とした(**図2**)。

柴胡加竜骨牡蛎湯が上肢の疼痛に有効であった症例

柴胡加竜骨牡蛎湯が上肢の疼痛に有効であった症例を**図3**に示す。興味深いことに、4例すべてに痛みによる睡眠障害、腹証において胸脇苦満と臍傍圧痛、下腹部圧痛がみられていたが、いずれの症例も柴胡加竜骨牡蛎湯投与後に、胸脇苦満の軽快または消失が認められた。

考　察

柴胡加竜骨牡蛎湯の原典は『傷寒論』太陽病脈証并治中第六であり、「傷寒八九日、之を下し、胸満煩驚、小便不利、譫語、一身儘く重く、転側すべからざる者は、柴胡加竜骨牡蛎湯之を主る」と記載されている。また、山田正珍『傷寒論集成』では「胸満煩驚」の鑑別として柴胡加竜骨牡蛎湯を挙げている。

津田玄仙の『療治茶談』沈香天麻湯の条には、癇症を鑑別する25の口訣を挙げているが、柴胡加竜骨牡蛎湯などの処方から症状の寒熱・虚実・軽重深浅を考慮して運用し、

図4 柴胡加竜骨牡蛎湯と疼痛

津田玄仙『療治茶談』沈香天麻湯の条
癇症*を鑑別する25の口訣を挙げており、これらのうち2、3があれば癇症であり、
- 沈香天麻湯
- 竹筎温胆湯加味方
- 柴胡加竜骨牡蛎湯
- 半夏白朮天麻湯

などから、症状の寒熱・虚実・軽重深浅を考慮して運用するという

癇症を鑑別する口訣（一部）
- 眩暈がする
- 怒りっぽい
- 手足が痛む
- 手足がひきつれる
- 腹中一面に動悸が強い

その際、柴胡加竜骨牡蛎湯では"胸満"が重要であるとしている

＊：現在でいう神経症、心身症と考える

柴胡加竜骨牡蛎湯を選択する場合には、"胸満"が重要であるとしている(**図4**)。

まとめ

今回の症例は、"心身一如"の治療であったと考えられ、睡眠障害を伴う疼痛症状に胸脇苦満を認めれば柴胡加竜骨牡蛎湯が有効である可能性がある。一般的な、いわゆる病名投与的処方で効果がみられないときは、主訴の周辺症状にも注目してみる必要がある。古典の条文から学ぶことは多くあると実感した。

Discussion

木村：柴胡加竜骨牡蛎湯には大黄が少量配合されている製剤もありますが、この患者さんの便通はどうでしたか？
黒川：便秘傾向でしたので、大黄配合の柴胡加竜骨牡蛎湯としました。正常な便通の方でも最初に少し下してあげると効果がみられる印象があります。大黄には向精神作用もあるため、下痢がなければ大黄が配合された製剤を選択しています。実際にクラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯の大黄の配合量は1g/日であり、これまでにほとんど影響はありませんでした。
木村：他に鑑別処方についてご説明ください。
黒川：神経性の疼痛には抑肝散なども使われますが、私は柴胡桂枝湯や大柴胡湯をよく使います。柴胡桂枝湯は、比較的ストレスがある状態でもあまり表情に出ないような過剰適応の痛みに、大柴胡湯は全身が痛く、訴えはないものの胸脇苦満の真裏の背中の下に圧痛がある"隠れ胸脇苦満"の方に効果的です。